



GREEN FINS

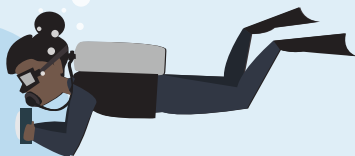
水中撮影を行うときのベストプラクティス

私たちは、海を大切にする事業者として、すべての水中カメラマンや水中撮影を行う方に、ダイビングの際のベストプラクティスを守り、海洋生態系の保護にご協力いただくようお願いしています。

すべきこと

してはいけないこと

- ✓ **器材(ゲージやレギュレーター等)を固定する:**引きずってサンゴ礁を傷つけないように
- ✓ **近づく前に状況をよく確認する:**あなた自身やカメラがサンゴ礁に触れる事のないように
- ✓ **カメラを持ってダイビングをする前に、浮力コントロール、ホバリング、写真のスキルを練習する:**高レベルの浮力コントロールは海洋環境へのダメージを防ぐ
- ✓ **動かず忍耐強く待つ:**撮影対象が怖がらないように;そうすることでより良い写真を撮る最良の機会が増える
- ✓ **ゆっくり後ろ向きに進むフィンキックを覚える:**サンゴ礁を傷つせずに離れる事ができる
- ✓ **ナイトダイビングではライトに注意する:**夜行性の行動を邪魔したり寝ている魚を起こす事のないように
- ✓ **ベストプラクティスを守るガイドにチップを渡す:**彼らの環境への配慮に感謝していると伝える



- ✗ **特定の生物に固執しない:**特定の生物にしか興味がないとガイドが感じると、ガイドは海洋生物を動かしたり触ったりしなければとプレッシャーを感じてしまう
- ✗ **海洋生物に触れたり、操作したり、追いかけてりしない:**鮮明なショットを撮るために、手や他の器材(指示棒等)を使って海洋生物を動かさない。あらゆる操作は大きなストレスになる
- ✗ **サンゴに触れたり、掴んだりしないこと:**支えとして、また鮮明な写真を撮るためにサンゴを動かしたり壊したりしない
- ✗ **一個体を過剰に撮影しない:**フラッシュを使った撮影は一人のダイバーあたり5枚までと制限する。過剰なフラッシュの使用は怖がらせ、ストレスを与える
- ✗ **海洋生物のスペースに侵入しない(クリーニングステーション等):**海洋生物に近づきすぎると逃げられてしまう。海洋生物が隠れたり、体色を変えたり、泳いで逃げようとするなど、ストレスの兆候を示した場合は、他の被写体に移る。
- ✗ **沈殿物を巻き上げない:**中性浮力を維持するか、必要に応じてフィンの先端を静かに砂浜に下ろす。



もしこれらのガイドラインを遵守していない方を見つけた場合、その事実をダイブショップのマナージャーに報告するか、グリーンフィンズチームにお知らせください。(info@greenfins.net)

